

# 第142回 中小企業景況調査報告書(概要版)

平成26年10月～12月実施

平成27年1月～3月予測

福岡県商工会連合会

この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成26年11月15日(土)
3. 調査対象時期 平成26年10月～12月
4. 調査対象企業 須恵町・筑紫野市・宗像市・大刀洗町・八女市・柳川市・水巻町・みやこ町・飯塚市・大任町の150企業
5. 回答企業 150企業(有効回答率100.0%)

製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
30	20.0%	20	13.4%	41	27.3%	59	39.3%

## ☑ 県下産業全体(業況・売上額 D.I)

→ **製造業**で改善の動きがあるものの、全体的に悪化傾向にある県内の中小企業景況

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成25年 10月～12月		△41.4		△19.1		△46.3		△23.2
平成26年 1月～3月		△7.2		0.0		△29.2		△17.2
平成26年 4月～6月		△13.3		△15.0		△35.0		△23.8
平成26年 7月～9月		△36.7		△20.0		△36.7		△17.0
平成26年 10月～12月		△3.3		△35.0		△58.5		△28.7

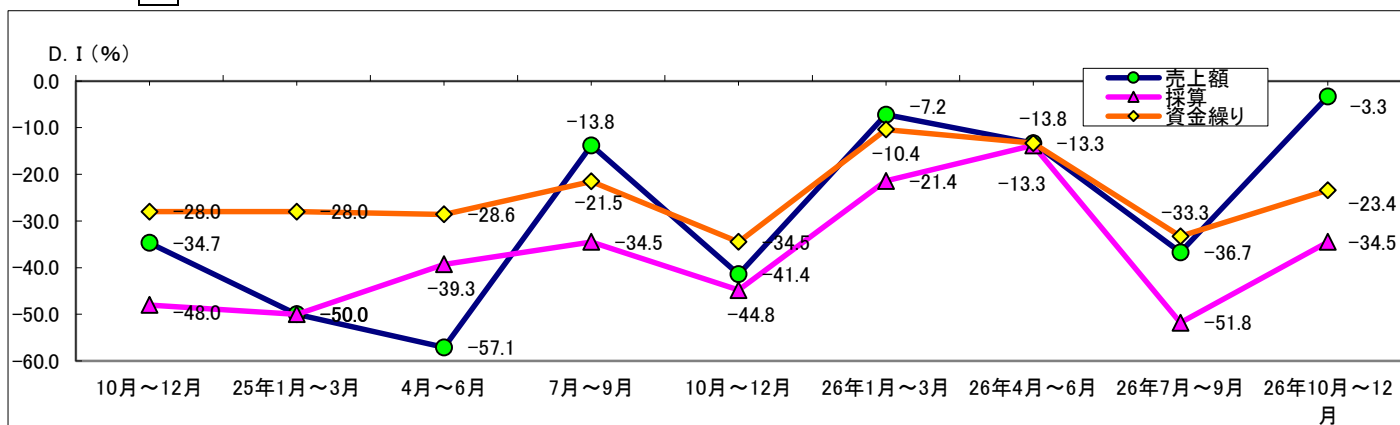
<天気図の見方>

D.I値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	 【快晴】 +30.1 以上	 【晴れ】 +10.1 ～30.0	 【薄曇り】 △10.0 ～10.0	 【曇り】 △30.0 ～△10.0	 【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額D.I値は、前回調査時(平成26年7月～9月)と比較すると5.9ポイント悪化している。悪化の要因は、製造業で33.4ポイント改善したものの、建設業の15.0ポイントの悪化をはじめ、その他の業種で軒並み悪化しているためである。

## ☑ 製造業 (有効回答数 30 企業)

➡ **建築資材・金属関連で受注が好調だが、コスト高が足かせとなっている製造業**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

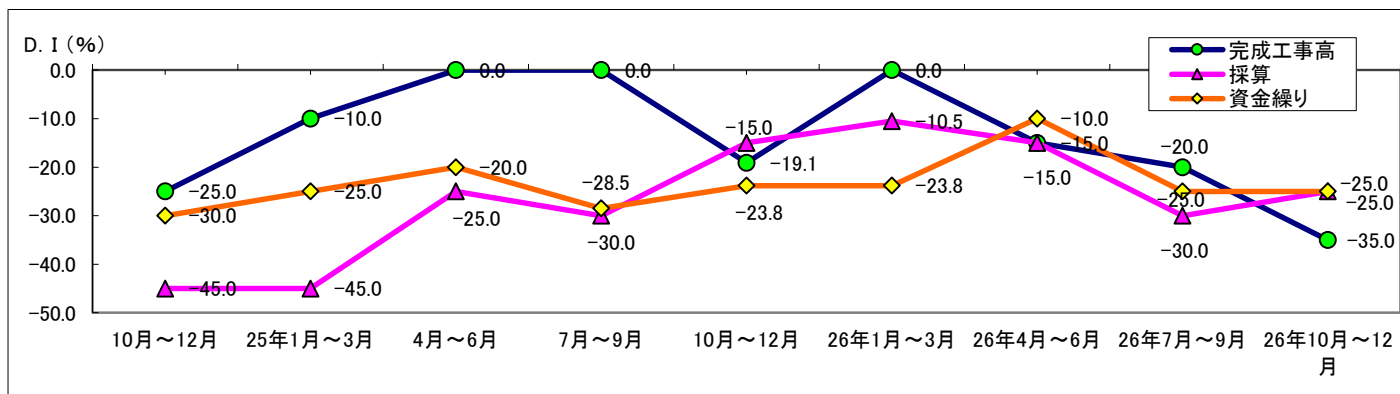
- ・東京オリンピックの開催準備に向けて受注が増えている。(建築用金属製品製造業)
- ・原材料は高騰しているが、価格転嫁できず収益が悪化している。(生菓子製造業)
- ・消費税増税による材料費の値上りが厳しい。それに伴い単価を急に上げることも出来ないため、仕事量にて売上を伸ばす他はないようだ。今のところ前年度よりは売上増になっているが、今後も上向きを願うところだ。(金属製品塗装業)

### <経営上の問題点>

前期	今期
第1位 需要の停滞 35.7%	第1位 原材料価格の上昇 24.1% (+20.5)
第2位 生産設備の不足・老朽化 21.4%	第2位 生産設備の不足・老朽化 17.2% (-4.2)
第3位 製品単価の低下、上昇難 10.7%	第2位 需要の停滞 17.2% (-18.5)

## ☑ 建設業 (有効回答数 20 企業)

➡ **建設資材価格の高止まり、人手不足によるコスト高などで悪化傾向にある建設業**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

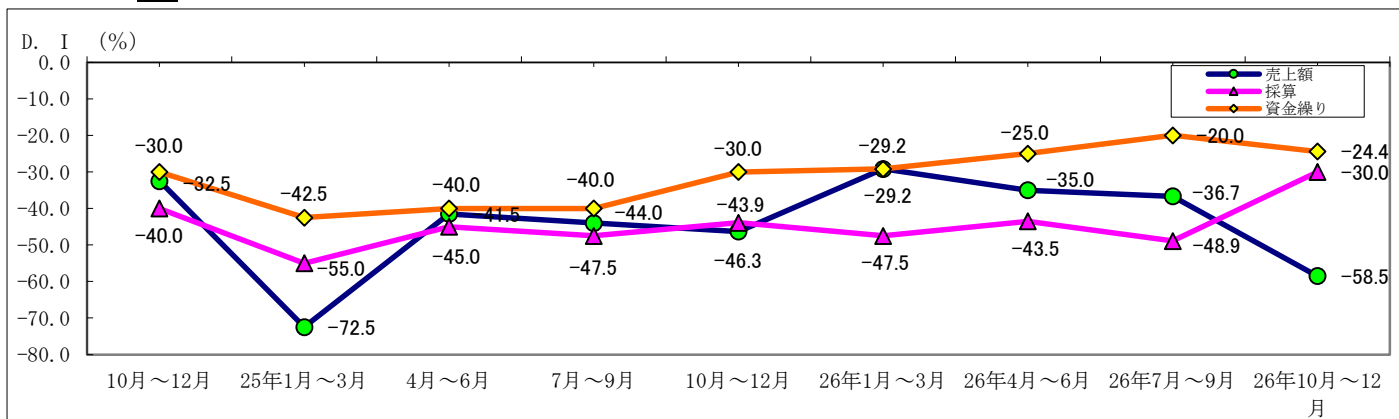
- ・景気はなかなか好転しない状況の中で、来年の消費税値上げが議論されている。受注は少ないのに人件費や材料代は年々上がり続ける。経費や税金は毎月経営を圧迫する。しばらくは静観するしか仕方がないのかもしれない。(内装工事業)
- ・新聞、マスコミ等での報道で景気の話を見聞きあるが、いつになれば、私たちの景気の上昇の実感を感じられるのか不安。(一般土木建築工事業)
- ・今年の全般に比べて受注工事の数は持ち直したが、昨年と比べると請負単価・数はまだまだ少なく厳しい業況である。(一般土木建築工事業)

### <経営上の問題点>

前期	今期
第1位 請負単価の低下、上昇難 23.5%	第1位 請負単価の低下、上昇難 18.7% (-4.8)
第2位 材料価格の上昇 17.6%	第1位 材料価格の上昇 18.7% (+1.1)
第2位 熟練技術者の確保難 17.6%	第2位 材料費・人件費以外の経費の増加 他 12.5% (+6.6)

## ☑ 小売業 (有効回答数 41 企業)

➡ **個人消費の落ち込みや競合店の進出などの影響で、依然厳しさが続く小売業**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

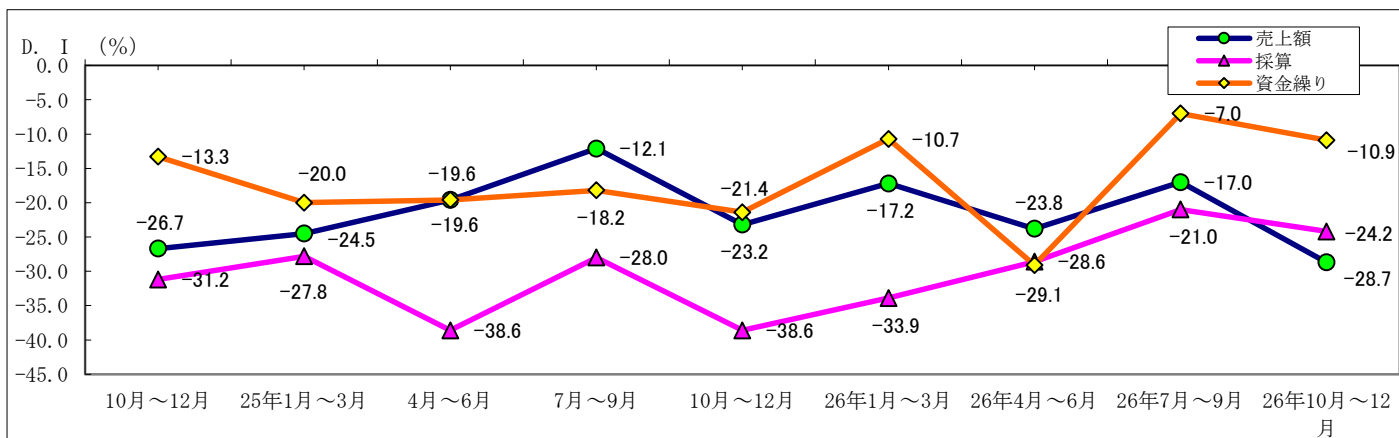
- ・消費増税の影響が大きく消費の冷え込みを感じる。同業他社の進出の影響も少なからずあると思われる、業績が上向く要因が見当たらない。(コンビニエンスストア)
- ・市内での同業社が多く、低価格競争になりつつある。(めがね小売業)
- ・例年10月に売上の落ち込みはないが、今期は落ちた。4月の消費増税の影響があったのかもしれない。(機械器具小売業)

### <経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化	35.9%	第1位 大型店・中型店進出による競争の激化 29.4% (-6.5)
第2位	同業者の進出	12.8%	第2位 販売単価の低下、上昇難 14.7% (+7.0)
第3位	購買力の他地域への流出 他	7.7%	第2位 購買力の他地域への流出 14.7% (+7.0)

## ☑ サービス業 (有効回答数 59 企業)

➡ **消費意欲の低下や材料等仕入価格の上昇で、悪化に転じたサービス業**



### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・燃料代の高騰、高速料金の割引変更、更に消費税の引き上げにより、利益幅が減少し非常に厳しい経営環境にあります。現在運賃の見直し交渉しておりますが、客先も厳しいとのことで業況としては先行き不透明です。(道路貨物運送業)
- ・とにかく客の財布の紐が固い。自分の店舗だけでなく、他店も同様らしい。客数も少ない。世間全体が不景気なのだ実感する。(居酒屋)
- ・本社の方針で商品在庫を過剰に抱えないようになってきている。効率化が求められる時代変化がある。(美容業)

### <経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	従業員の確保難	17.6%	第1位 需要の停滞 18.7% (+6.9)
第2位	需要の停滞	11.8%	第2位 利用者ニーズの変化 12.5% (+2.7)
第2位	店舗施設の狭隘・老朽化 他	11.8%	第2位 従業員の確保難 他 12.5% (-5.1)